

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

これからの日本を思う

日本が元気を取り戻さなければ、株式市場は上がりません。母国日本ですから、ぜひ元気を取り戻してほしいものです。大きな歴史の流れの中で、国の盛衰は必定ですが、衰退することあれば盛り返せることもあり、それを遂行するのはわれわれ日本人をおいてほかにありません。

戦後67年、日米安保体制また戦争放棄の平和憲法の下、国民は国のあるべき姿、母国への誇り、愛国心という概念が希薄になっているように思います。昔の軍国主義を想起させるのか、愛国心を遠ざけがちですが、国民が国を愛する心を失ったら、その国は持ちません。

私が残念に思うのは、第2次大戦で多くの有能な人材を失ってしまったということです。戦死者は300万人を越えるといわれています。その多くはその後の日本を背負って立つ優秀な若者でした。これらの人たちが生きていれば、日本は、今の姿とはずいぶん違うものになったのではないかと考えてなりません。

私が大学に入った1970年代から見ても、日本に明確な国家政策、確たる国家観があったとは残念ながら感じません。ただ、なるがままに時が経過したという印象を禁じ得ません。それは、レベルの低い政治家、先例のみに頼る頭の固い役人、そして既得権益を守ろうとする勢力、そして平和と経済成長を所与のものとして、国をよくしようとする意志の弱い国民のなせる業です。日本は、旧来のシステムが老朽化しているのに、それをずるずる引きずり、世界が急速にグローバル化している中でガラパゴス化し、戦えなくなっているのが現状です。

こういう状況のなかで日本人が立ち上がらないとしたら、この国は衰亡の

一途をたどるのは目に見えています。いや、むしろ、現在急速に衰亡の一途をたどっているといつてもよいでしょう。それを救うのは、われわれ日本人しかいません。われわれは、平和ボケの眠りから覚めなければならぬのです。



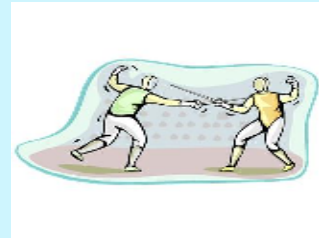
現在の政治状況はどうでしょう。戦後、自民党の長期政権のもとで現状の日本がつくられ、民主党はマニフェストのほとんどを反故にし、官僚のいなりになり落ちぶれてしまいました。これらの既存政党は、もう見限るべき時です。橋元維新の会や石原新党などの動きがあるのは当然の流れですが、これらの動きにとどまらず、国民が決然として立ち上がりものをいうべき時期に来たといえます。

財政赤字の問題、人口減少高齢化、年金の問題、領土の問題など、日本が取り組むべき課題はあまりにも重大なテーマです。これらの問題を抱えた20年、30年後の日本を思うと、寒々しく恐ろしいものを感じます。いまこそ、日本人一人ひとりが、声を上げ、行動を起こし、既得権益、旧来システム、平和ボケしたカルチャーを大きく変革していかなければなりません。まさに強い国民の意志と行動が日本を変えていくのです。

ロンドン・オリンピックを見ながら感じること

オリンピックは4年に1度しか開催されないところに、希少価値が生まれるのでしょうか。毎年開かれる世界選手権は競技会のようなもので、オリンピック独特の興奮を感じることはありません。オリンピックは、見る方も興奮度がまったく違います。

そのため、選手への期待度は高く、前評判やメダルの獲得予想はかなり当てにしてみます。特に期待度が高かったのは柔道ですが、幕が開くと日本選手と他国選手の力量の差は歴然で、前評判との落差を強く感じました。所属団体の事前メダル予想は、状況判断を誤っていた証左とも見られかねないものでした。スポーツ競技でのガラパゴス化はぜひ避けたいものです。



一方で、なでしこジャパンや内村航平選手の活躍は、まさに期待通りでしたが、これまであまり下馬評に上らなかった選手の活躍も目立ちます。特にアーチェリーや競泳陣は男女とも銀や銅メダルを次から次に獲得、競泳選手のレベルは世界でもトップレベルにきました。フェンシング男子団体・女子卓球もすばらしい活躍でした。

オリンピックもこれから後半戦！サッカーやマラソンなど、まだ目白押しです。日本選手、頑張り！

今月の言葉:

マックス・ウェーバーが「資本主義の精神」を表すとしたベンジャミン・フランクリンの言葉

- 時間は貨幣だということを忘れてはいけない。
- 信用は貨幣だということを忘れてはいけない。
- 貨幣は繁殖し子を生むものだということを忘れてはいけない。
- 支払いのよい者は他人の財布にも力をもつことができる
- そういう諺があることを忘れてはいけない。
- 信用に影響を及ぼすことは、どんなに仔細なおこないでも注意しなければならない。
- 自分の手もとにあるものがみな自分の財産だと考え、そんなやり方で生活しないよう気をつけなさい。(慈善の精神)

弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>



毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20 汐留ビルディング3階

電話 : 03-6721-8386

携帯 : 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール : info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

退職後のお金を死ぬまで続けさせるいくつかのポイント

このタイトルは、われわれにとって大変大事なテーマです。年金支給の後ずれ、支給額の減少、賃金の減額、職の安定性の低下は現代日本特有の問題です。死ぬまでお金が持つようにするという事は、これから自分自身の大切な課題として受け止めなければいけません。

米国の著名な投資啓蒙家P・バーンスタインは次のようにいっています。

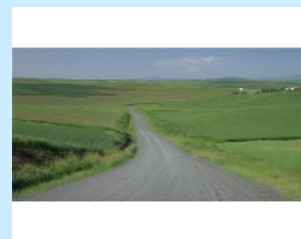
- 投資家にとってのゴールは死ぬまでお金がなくなるらないこと。

死ぬまでお金が持つようにするためには、働いている間にしっかり資産形成に励むということです。借入金がなく持ち家があり、公的年金のみが年金となるベースで、夫婦で5000万円程度の金融資産を退職時に持っておくと、ゆとりのある老後生活がすごせるでしょう。

退職前の資産積み上げフェーズは、シンプルで手間をかけずに、正しい投資方針のもと一貫して続けることが大事です。お気軽に私どもにご相談ください。

また金融資産は、管理しやすく、年をとっても簡単に引き出せるよう、1つか2つの身近な金融機関にまとめることです。オンライン証券より窓口のある金融機関のほうが使い勝手がいいでしょう。換金しやすく、換金コストが低い金融商品に

しておくことも大事です。



多くの人は、「自分はあまり長生きしない」と見る人が多いようです。米国人は余命を5歳以上短く見積もっているそうです! また、寿命は同性の親より2~3年長く生きると見るべきとする考え方もあります。これからは寿命90歳が珍しくない時代になってきます。寿命の見積もり違いは、長生きできたというのに、致命的な悲劇になりかねません。

退職後のお金の引き出し方も、大変大事です。金融資産ポートフォリオの4%程度を毎年引き出すという定率引出しがお勧めです。明らかな過ちは、定額を引き落とすことです。定額引き落としですと、資産価値が下がったときに引き出す率が多くなるので、残りの資産が想定以上に減ってしまいます。資産価値が下がったときは少なく、上がった時は多く引き出せる「定率引出し」が引き出し方の基本です。

第18回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』を開催します！

—こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる—

大切な資産運用で、本当のことを知るのはいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しの付かない損を被ることも珍しくありません。

日本の将来が不透明感を強める中、国の制度や周囲に頼ることはできません。自分でしっかり判断して、人生を切り開いていく必要があります。資産運用もまさにその通り。このセミナーで、他では絶対に聞けない、人生を安心して過ごせる「正しい資産運用法」をぜひ学んでください。きっとかけがいのない時間となることでしょう。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤峰男だから語れる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！

◆ このセミナーで「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」がわかる！ ◆

～参加無料 限定10名～

日時：2012年9月1日(土)15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅：有楽町・日比谷駅)

申し込みは、下記メールまたは電話にて「9月1日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール： info@bfsc.jp

Tel: 03-6721-8386



講師：尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

プロフィール：

米国CFA協会認定証券アナリスト、CFPR、日本証券アナリスト協会検定会員、1級FP技能士、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーとして、個人の金融資産や退職金の運用助言・ライフプランニングサービスを提供する。2000年当社設立。グローバルな投資理論や外国株投資・国際分散投資への造詣が深い。日本経済新聞、週刊東洋経済、日経マネーなどへのコメント多数。日経CNBCにもたびたび出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」日本経済新聞出版社。投資助言・代理業として関東財務局登録。